

大野城市の文化財

第 44 集
国指定史跡 牛頸須恵器窯跡



2012年

大野城市教育委員会

序

大野城市には、国指定特別史跡大野城跡などたくさんの遺跡や民俗文化財が残されており、毎年調査を実施しています。その内容について、市民の皆様により分かりやすい形でお伝えしようと年1冊発行してまいりました『大野城市の文化財』は、今回で44冊目になります。

今回は、大野城市の南部から春日市・太宰府市に広がる牛頸窯跡群を紹介します。牛頸窯跡群は平成21年2月12日に「牛頸須恵器窯跡」として史跡指定されました。これを記念し、平成22年1月に九州国立博物館でトピック展示を実施しました。本書はその解説冊子を再編集したものです。

牛頸窯跡群は、6世紀中ごろから9世紀中ごろにかけての300年間に、総基数500基超の窯跡が作られた九州最大の須恵器窯跡群です。窯は大和政権の拠点施設である那津官家や大宰府に近い場所で操業されただけでなく、焼かれた製品も運ばれるなど密接な関係がありました。こうした関係の下におこなわれた牛頸窯跡群の須恵器生産は、当時の政治的・社会的情勢をよく反映しており、北部九州のみならず、日本の歴史を知る上で欠くことができない遺跡です。

本書を広くご活用いただき、牛頸窯跡群と窯が作られた時代と地域への理解を深め、よりよいまちづくりのために、本書が少しでも役立てれば幸いです。

平成24年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 吉 富 修

目 次

I. 牛頸須恵器窯跡とは？	1
II. 牛頸須恵器窯跡の発見	4
III. 牛頸須恵器窯跡の開窯と変遷	6
操業のはじまりと多孔式煙道窯（6世紀）	
生産の拡大と転換（7世紀）	
西海道一の窯場へ（8世紀）	
生産の衰退と終焉（9世紀）	
IV. 様々な遺物と工房の風景	14
様々な遺物	
工房の風景	
V. ヘラ書き須恵器と工人墳墓	16
ヘラ書き須恵器	
工人墳墓	
VI. 牛頸須恵器窯跡の歴史的特徴と今後の保存	18

凡 例

1. 本書は、平成22年1月に九州国立博物館で実施したトピック展示「牛頸須恵器窯跡とその世界」のパンフレットを再編集したものです。
2. 本書に掲載したイラスト・写真につきましては、下記の方々および機関からご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
岩本恵・岡紀久夫・小田富士雄・九州大学考古学研究室・九州大学埋蔵文化財調査室・田尻義之・田中良之・宮本一夫・山上成邵
3. これまでの調査・研究では、各窯跡群や遺跡群全体の名称として「牛頸窯跡群」を用いています。本書では表記の都合上、指定名称である「牛頸須恵器窯跡」を用い、「牛頸窯跡群」と同義のものとして使用します。

I. 牛頸須恵器窯跡とは？

牛頸須恵器窯跡は、福岡平野の南東部にある背振山系から北側にのびる山麓の丘陵地帯に位置します。その範囲は、福岡県大野城市上大利から牛頸を中心とし、春日市・太宰府市の一部を含む東西4km、南北4.8kmに広がります。

牛頸須恵器窯跡が位置する丘陵は、川の開析作用により多数の谷が形成されています。早良型花崗岩を基盤とし、表層は風化が激しく真砂土となっています。

この丘陵斜面には、須恵器窯跡が多数確認されています。1960年代以降、大野城市教育委員会をはじめ、福岡県教育委員会・春日市教育委員会・太宰府市教育委員会ならびに九州大学・国士舘大学・立正大学・大谷女子大学（現 大阪大谷大学）など多数の機関・組織によって発掘調査が実施されており、これまでに調査された窯跡は300基を超えます。近年実施した分布調査の結果では、山中になお100基を超える窯跡が残されていると推定され、未調査のまま消滅したものを含めると、牛頸須恵器窯跡は総基数500基以上の一大須恵器窯跡群であることが判明しました。窯の数と内容は、西日本では大阪府にある大和政権の窯場として著名な陶邑窯跡群に次ぐ規模で、九州最大の須恵器生産地として極めて重要な遺跡群です。

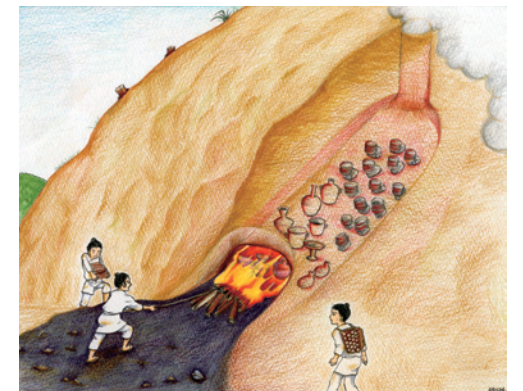
こうした遺跡の重要性から、今でも窯跡が残されている場所のうち、12カ所約220,000㎡が平成21年2月12日に「牛頸須恵器窯跡」として国史跡に指定されました。

本書は、これまでの調査・研究成果を基に、その重要性をお伝えします。

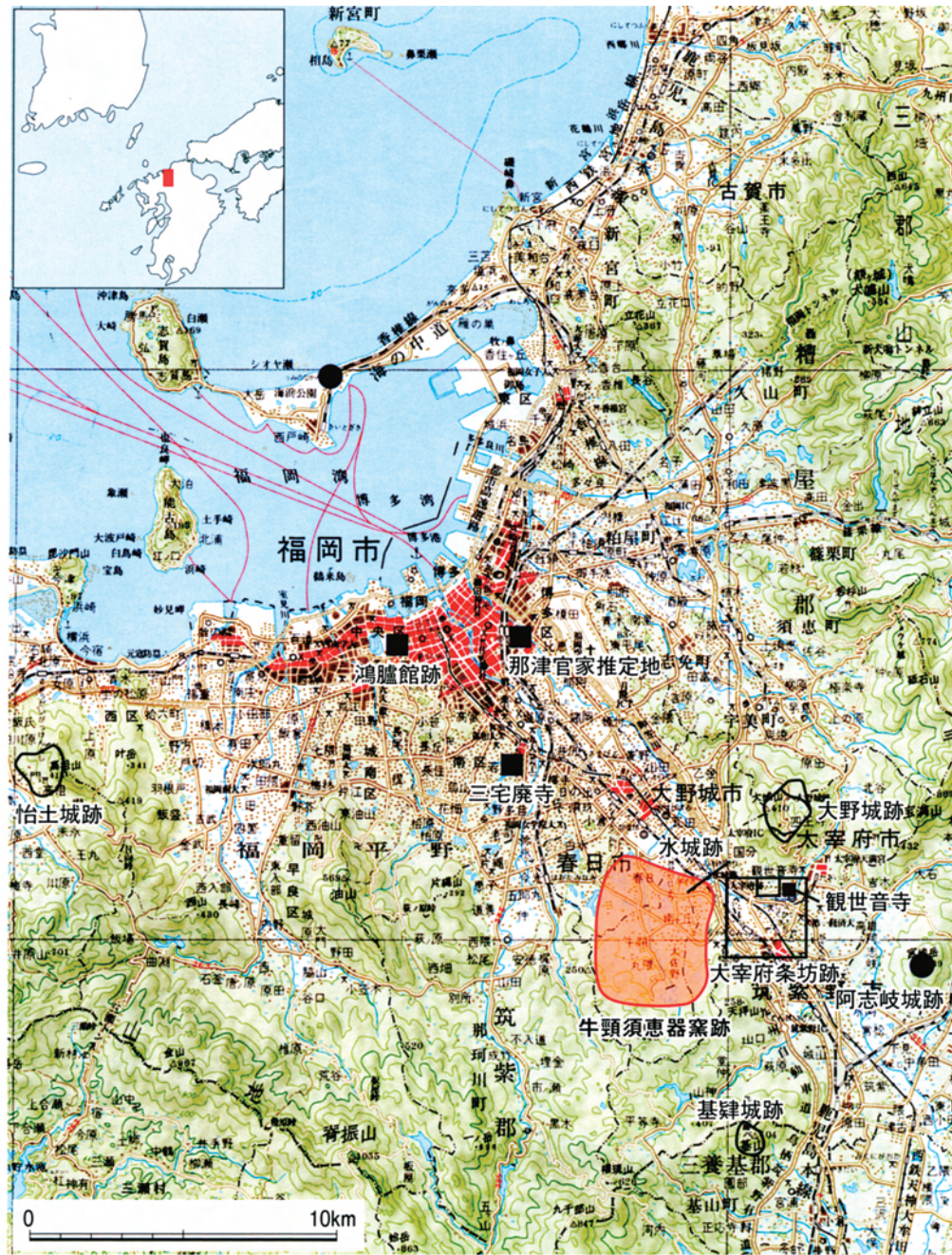
用語解説



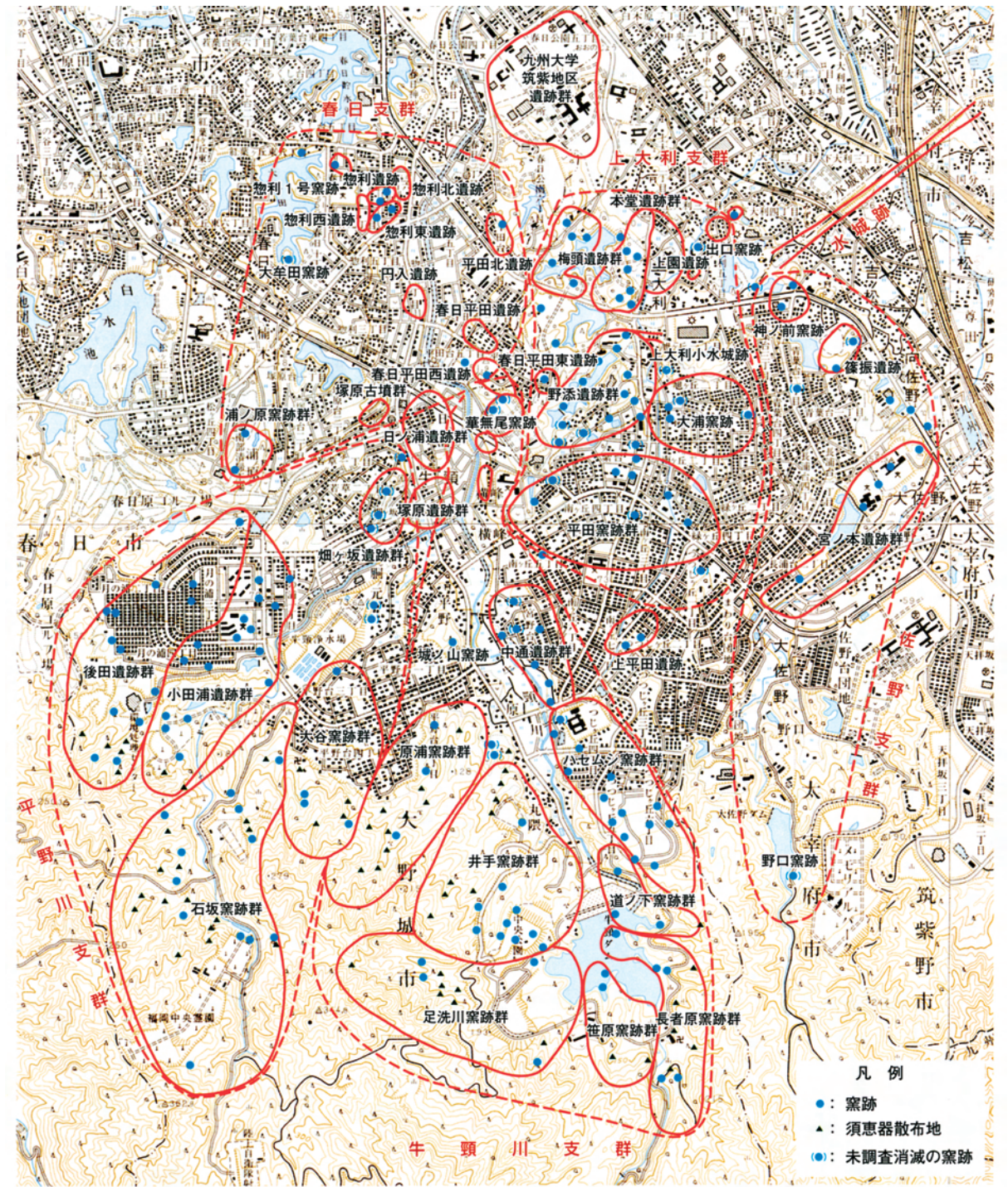
須恵器とは？ 須恵器は、灰色・硬質・無釉の焼物です。成形にはロクロが用いられ、甕の成形にはタタキ板・当て具を用いて叩きしめを行います。窯で焼かれ、1000℃以上の還元焰焼成により灰色に発色します。5世紀初め頃、朝鮮半島から日本各地に技術が伝えられました。



窯の構造 須恵器窯は、単室の窯という意味と近世の連房式登窯と混同を避けるため「窖窯」の呼称が用いられます。窯の床面は、傾斜のあるものと平らなもの（平窯）があります。須恵器づくりの技術とともに朝鮮半島から日本に技術が伝えられました。



牛頭須恵器窯跡の位置



牛頭須恵器窯跡の窯跡群・遺跡群分布図